

～『自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成』をめざして～

## ★1学年の『探究発表会』が行われました！★

### 1. SAHと探究

SAHの目標である「自ら考え、判断し、行動できる生徒の育成」と「探究」は相性が良いと言えます。「探究」は自分で疑問に思ったこと、つきつめて考えてみたいことなどを色々な角度から調べ、考え、「課題」を設定し、「課題解決」を導いていきます。本校のグラデュエーションポリシーのキャッチフレーズにある「もう誰のせいにもしない」、「困難に負けない自分になる」、「教わるから学ぶへ」を実践するうえでも、これ以上無い場面です。

今年度は「前橋南高校をよりよくするためには」という身近なテーマで探究を行ってきました。非常に良い活動ができたと思います。その過程や発表会の様子をご覧ください。（1学年主任 高田 慧）

### 2. 今年度の取組

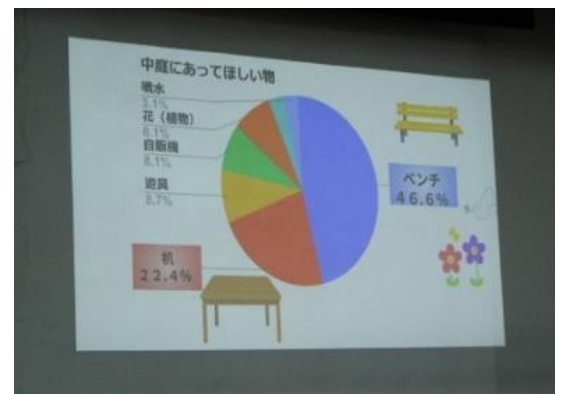
「総合的な探究の時間」で大事なことは上記にあるように、まず「疑問に思ったこと、つきつめて考えてみたいこと」を見つけることだと思います。しかし、いきなり「あなたが疑問に思っていることは何？つきつめたいことは？」と聞かれても、大人でもなかなかすぐに答えることができません。そこで今年度は課題を設定しやすいように、自分達が毎日過ごしている前橋南高校での生活を軸にして考えることにしました。身近な問題に焦点をあて、どうしたらそれが解消されるのか。自分の力で何ができるのかを考え、行動し、新たに生まれる疑問に対処していく。このサイクルがうまく軌道に乗るように取り組んできました。

まず1番重要である課題設定までは、各クラスで担任、副担任が生徒と一緒に考えて活動していましたが、設定後はテーマ毎に担当教員を割り振り、ゼミ形式で進めていきました。課題を設定した後の具体的な動きを知るために、昨年度生徒会が実現させた「アイスの自販機の導入」についてのプレゼンを動画で見ました。1年生にとっては入学当初から当然のようにあったアイスの自販機がどういった経緯で導入されたのかを初めて知りました。「アイスの自販機があったらいいなあ・・・」とつぶやくだけでなく、そのためには何をしなければならないのか、設置している学校はないか、その学校のルールは？前南ではそのルールのままで良い？業者とのやりとりは？校内の誰に掛け合えば良い？等実現するにあたりやるべきことが山のようにあることが分かりました。そんな現実と向き合い、いざ自分達の課題実現に向け活動スタート！「こうなったらいいなあ」では何も始まらないことが分かったので、実現させるためには何をすべきか考えました。

実現できた時に生じるメリット、デメリット。デメリットを解決するためには何をしなければならないか。また、前南生が普段の生活でどんなことを考えているか把握するためにアンケートを作って実施したり、他校の取組や実態を知るために連絡をとったりと、普段の生活ではあまりやらないことに戸惑いを感じつつも、グループで助け合いながら活動を進めていきました。課題によっては実現が難しく、途中で一から課題設定をしなければならなくなったグループもありました。しかし、そこまでのプロセスが大事な学びであることに生徒が気づくことができたので、貴重な経験になったことだと思います。

11月にはクラスで中間発表を行い、クラスメートから第三者の視点で見たアドバイス（ツッコミ）をもらい、クラス発表に向け準備を進めました。クラス発表では投票で代表を決め、3月17日（月）に学年発表会を行いました。以下が今年度クラス代表になった発表テーマです。

- 1組・・・「ジャージ着たっていいじゃない」
- 2組・・・「BYODの活用について」
- 3組・・・「文化祭の食品販売」
- 4組・・・「中庭を常時開放できるようにしたい」
- 5組・・・「体育着登校を実現しよう」



惜しくもクラス代表になれなかったものの、この他にも、「職場体験をしよう」「他校との合同体育大会」「駐輪場を安全にしよう」など色々なテーマについて取り組むことができました。実現に向け動くことができそうな取り組みは、職員も働きかけたいと思います。

### 3. 来年度への課題

今年度の探究活動を振り返ってみると、生徒の素晴らしい所をたくさん発見することができました。グループ活動でリーダーになって話を進めることができる生徒、仲間の得意分野をきちんと理解して役割分担を考えることができる生徒、パソコンを駆使して分かりやすい資料を作ることができる生徒、多角的な視点で物事を捉えることができる生徒、外部に連絡する際に、丁寧な敬語を使って機転を利かせて受け答えができる生徒・・・枚挙に暇がありませんが、そのような場面を数多く見ることができました。生徒自身も仲間のすごい所に気づくことができたと思います。

今年度の探究は2年生で行う探究学習の前哨戦でした。来年度は自分達の将来や、実社会全般において興味関心のあることについて探究する予定です。進学、就職してから考えるのではなく、そこでの学びや社会に自分がどう関わっていくか、自分の考えが他者の生活にどう役立つのかを今から考えていきます。なぜ勉強しているのか？この学びはこういったことに生かせるのではないのか？そんなことを考えることができるようになればきっと素晴らしい高校生になることができると思います。学年発表の最後に私が生徒に話したことですが、この学びはこれから生きていく上で必要不可欠になる力を育てるものであり、社会にでて求められる力です。是非今年度培ってきたことを生かして活動し、来年度さらにその力を伸ばして行ってほしいと思います。先日の共愛学園前橋国際大学の大森学長が仰っていたように、指示を待っているだけではあつという間に一日が過ぎ去っていきます。ただ漫然と日々を過ごすのではなく、自分を成長させるために自ら動き出してほしいと思います。（1学年探究担当 川浦篤）

### 4. 生徒たちの感想〈原文のまま〉

#### 1組 福島颯真

一年間、今まで小中でやってきたこととは似てるようで違うもので最初は難しく感じました。学校の問題をテーマごとに炙り出すことは、普段この学校で生活してるからなのかみんな沢山出てきていました。クラス全体で考えることがうまくできてたと思います。出たテーマで班に分かれて調べていくときには、何から始めたらいいのかさっぱりわからず、とにかく悩みました。スライド毎に人を分け、どんなことが説得するのに向いているのかを考えながら内容を考えていきました。人それぞれ得意な仕事が違うので、それぞれが活躍できることを探して仕事を分けました。スライドを作るのが得意な人、アンケートまとめるのが得意な人、みんなの前で喋るのが得意な人など多種多様な人がいるんだなと改めて感じました。中間発表の後には指摘された点をみんなで改善しながらより良くしていくことに没頭していました。最後に学年の前で発表したときに、自分たちは頑張ってきたから今があるのかと達成感を感じていました。この先、更に自ら調べて発表していくことが増えると思うけど、何からやるべきなのか書き出すことがはじめに大切なんだなと思いました。

#### 2組 峯岸優衣

学校をより良くするためにという視点で探究活動を進めることは、人生で初めてでした。前南の改善できる場所を探し、実現可能であるかを考えつつ班員と協力して探究を進めることは慣れないことで難しかったです。他校にアンケートした結果の活用や一学年に実施したアンケートの活用では、情報の取捨選択が難しく、班員と沢山話し合い上手く活用できて良かったと思っています。また、作業を分担し、効率よく、そしてそれぞれがそれぞれの担当に責任を持ち探究を進めることができ、とても良い経験になりました。それぞれの得意なことを活かし、協力して主体的に探究を進めることは貴重な経験になったと同時に、普段の授業では体験できない体験をすることができ、思い出にもなりました。2学年での探究活動にも、今回の経験を活かしていきたいと思っています。

#### 3組 武田淳平

探究活動で自分の非認知能力がとても高められたと感じました。自分たちで今の前南をより良くするにはどうすればいいかを考え、そのための課題の作成も積極的に取り組んでいて、自分から行動する力や仲間と協力しながら進めていく協働力も身についたと思いました。明確な目標があると行動に移しやすいとも感じました。

#### 4組 酒本宙輝

1年間探究活動に取り組んできて様々なことを学びました。・大学見学では、班員と楽しく計画を立てたことで『計画立案力』を高められ、自分たちの将来を友達と共に考えられて『自主性』も高められました。SAHの探究活動では『前南をより良くするにはどうすればいいか』というテーマについて調べたこともそうですが、それよりも男女の壁無く一生懸命に各々の全力を尽くし素晴らしい作品を作り上げられたことがとても大きな財産になったと思います。そういったことから探究活動は私たちにとても良い影響を与えてくれたと思います。関わってくれた先生方や友達たちありがとうございました。

#### 5組 加茂部心太

今回探究をやってみて、前南をより良くするためにどうしたらよいかを考えることができました。また活動を進める中で、課題や目標を決めて達成のために自分から積極的に行動したことや、仲間と話し合い、協力していくことにより、「計画立案力」「自主性」「協働力」など様々な非認知能力を高められました。一人一人が自身の長所を生かし、苦手な部分はカバーし合うことで班全員が活躍することができたと思います。これからも自分自身の長所を生かして前南をより良くできたらなと思います。

★教頭より★ 前南のSAHは順調に進んでいますが、生徒会や各種委員会をベースとした組織に「有志生徒」が入る形のものがほとんどです。そこで今年の1学年の探究では「1年生全員」が「前南の課題解決」に取り組むことで、「前南生全員」が取り組むプロジェクトができあがりました。これは画期的なことです！各クラスの代表にならなくとも、「継続して取り組む」ことで「実現可能」なこともあるはず！実際に私のもとへ来てくれた1年の代表班以外の生徒の「他校との合同体育祭」の提案も素晴らしいものでした！1年生のみなさんのプロジェクトはこれからも「継続可能」ですし、これからの取組次第で「実現可能」です！期待しています！！教頭 星野 亨

★校長より★ 探究的な活動は①課題の設定、②情報の収集、③整理・分析、④まとめ・発表、⑤振り返り・考えの更新のサイクルを繰り返すことで課題解決力を身につけるものです。今回、1年生は「前南の課題解決」に取り組んでくれました。身近なテーマで探究活動を設定することにはいくつかの意味があります。例えば、探究活動で最も難しい「課題設定」を本当に自分が課題と考える「自分事」で設定できることや、その解決方法はネットを検索しても出てこず、皆さん自身が探し、考えるしかないということ等です。皆さんがどのような探究活動に取り組んだかを注目している大学もあります。積極的に取り組んで欲しいと思います。校長 原 拓史